

4 バランスのよい壁の配置

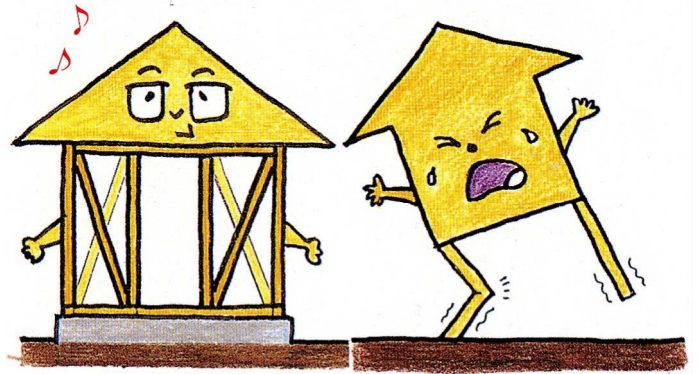
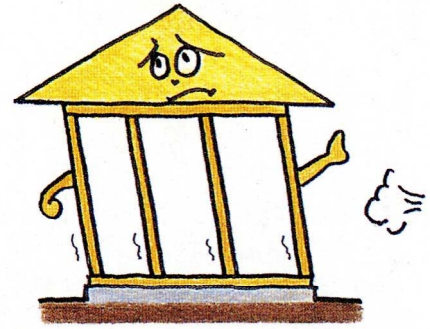
地震（水平力）に耐える抵抗を高めるために、筋かいや構造用合板で補強した壁（耐力壁）をできるだけ多く、建物全体にバランス良く配置しましょう。

柱と梁だけの建物は、地震力（水平力）が加わると簡単に变形してしまいます。

また、耐力壁は1か所に片寄ることなく、建物全体に釣り合いよく、まんべんなく配置しましょう。

建物は下の階ほど地震力が大きく働きますので、2階より1階の方が多く壁が必要です。

阪神・淡路大震災でも1階に窓を大きくとったり、車庫を設けたりした建物が耐力壁の不足から多くの被害を受けています。



5 筋かいや火打ち材の入れ方・合板の張り方

筋かい、方杖、火打ち材などの斜材の多く入った建物は剛な構造となり、地震力による変形を防ぎます。

筋かいは、どちらの向きに対しても変形しにくいように、向きが異なるものが一対になるようにできるだけ左右対称に設け、更にはたすき掛けに入れると丈夫になります。

また、筋かいは土台、柱、桁または梁からはずさないよう補強金物でしっかりとめましょう。

折角筋かいを入れても接合部がしっかりとまっていなると変形に十分耐えることができません。

耐力壁に使用する合板等は、構造用合板、パーティクルボード、せっこうボードなどがあり、JASやJISで品質が決められています。

